

令和4年度 学校経営改革方針

鈴鹿市立白子中学校

I めざす学校像（基本理念）

【学校教育目標】豊かな人間性をもち、進んでやりぬく生徒の育成

【めざす学校像】全ての子どもたちの居場所となれる安心できる学校

【めざす生徒像】

- (1) 失敗を恐れず自ら深く学び、目的を持ち主体的に行動する生徒
- (2) より良い結果を求め、創造・思考・挑戦する生徒
- (3) 互いを認め合い、尊重し合うことのできる人権感覚あふれる生徒

II 学校経営基本方針

鈴鹿市教育大綱及び鈴鹿市教育振興基本計画を根幹として、全ての子どもたちの居場所となれる安心できる学校の構築を目指すとともに、子どもたちに寄り添うことを大切にし、めざす生徒像の具現化に向けた学校経営に取り組みます。

1 学力の向上と授業改善

自己肯定感、自己有用感を育み、基礎・基本の定着と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組みます。

<重点項目>

- (1) 「対話的で学び合う授業」を大切にし、生徒の活動を積極的に承認します。
- (2) 生徒が自ら「発見・驚き・気づき」を促すように導きます。
- (3) 校区の小学校と連携し、系統立てた学力の向上を図ります。
- (4) 教育ICT機器や視覚効果を生かした授業づくりを進めます。
- (5) 強みを伸ばし、弱みを改善する家庭学習に取り組みます。

2 目的をもち主体的に行動する生徒の育成

より良い方法や解決策などを考え、主体的に行動する態度を育成します。

<重点項目>

- (1) 生徒が、主体的に取り組むことができる教育活動を推進します。
- (2) 将来への目標を抱くキャリア教育を進めます。
- (3) 主体的に行動する生徒会・委員会活動を推進します。
- (4) 地域の一員としての役割を果たす地域貢献やボランティア活動を推進します。

3 人権感覚あふれる生徒の育成

一人ひとりの様々な違いを個性ととらえ、お互いの良さを発見し、認め合い、高め合う心を育成します。

<重点項目>

- (1) 保護者や地域と連携した人権教育を推進します。
- (2) 互いの違いを個性ととらえ尊重することができる人権教育を推進します。
- (3) 仲間の絆を育み、いじめや不登校を生まない仲間づくり・集団づくりを進めます。
- (4) コミュニケーションを豊かにするソーシャルスキル教育を推進します。
- (5) 生徒の良さに着目し、安心して学び、生活できる生徒支援体制を推進します。

4 地域とともにある学校づくりの推進

学校運営協議会を中心とした保護者や地域との連携を促進します。

<重点項目>

- (1) 学校運営協議会による熟議を生かした教育活動の改善を図ります。
- (2) 通信やホームページ，配信メール等を活用して情報を発信していきます。
- (3) 校区の学校園と連携した教育活動を推進します。

5 学校教育環境の改善

学ぶ意欲と教育へのやりがいを高める教育環境の改善を図ります。

<重点項目>

- (1) 校舎の大規模改修とグラウンドの改修について教育委員会と連携を図ります。
- (2) 教職員の総勤務時間の縮減に向けた組織的な取組を推進します。
- (3) 教職員への積極的な情報発信や対話の機会を確保していきます。

Ⅲ 現状と課題

1 学校概要

生徒数約900名を抱える県内一の大規模校で、現在も校区内では、住宅開発が進められており、中学校区の児童生徒数は少子化による人口減少期を迎えてもほぼ横ばいの状態となっています。このような中、市が学校規模適正化の取り組みを進め、校区内の小学校から近隣の校区外の中学校へ進学する生徒も増えてきており、本校の生徒数は緩やかな減少傾向にあります。

本校の重要な課題としては、校舎の老朽化やグラウンドの環境改善が喫緊の重要課題であり、市教育委員会と連携した教育環境の整備が求められています。

また、教職員は80名を超え、中でも若手教員が多いことから校内での教員の資質向上や授業力向上、ミドルリーダーの育成など、組織的な指導体制の充実強化が重要となっており、多岐にわたる校内研修を充実させていくことが重要です。

生徒は、全体的に活動的で快活な生徒が多いが、多人数の中で自らの思いや考えを表現することができない生徒も多く、安心して自分の考えを表現でき、主体的に自己を磨くことができる生徒の育成が求められています。

また、家庭環境を含め、様々な背景を抱えている生徒も多数在籍しており、関係機関と緊密に連携した支援も求められています。

2 学力保障

グループ学習やペアワーク等での教室の机配置を検討することで、対話的で深く学び合える授業改善に取り組み、教職員の学力向上に係る意識も向上してきました。

また、全国学力調査やみえスタディ・チェックの過去問や県の学 VIVA! セットを活用し、学習の定着状況を確認する取組が進められてきました。

昨年度の全国学力・学習状況調査結果において、国語科は「適切な敬語の使い方」や「ものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをもつ」問題に課題がみられ、数学科は「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題に課題がみられました。

また、生徒への質問紙調査の結果においては、「1日当たりのテレビゲーム(様々な端末を含む)をする時間が多く、学校が休みの日に勉強する時間が少ない」といったように「家庭学習の習慣化」が大きな課題となっています。

3 生徒指導及び生徒支援

生徒指導に全般に関しては、学校全体として生徒の落ち着きがみられてきましたが、集団生活になじめないことによる問題や、支援が必要な生徒への課題もみられ、今後も引き続き、関係機関との緊密な連携が必要です。

いじめの問題については、学校評価アンケートをみると90%以上の生徒が「いじめや差別をしない強い気持ちを持っている」と回答していますが、いじめを「しない・させない・見過ごさない」といった意識の向上や、子どもが主体となったいじめ根絶に向け行動に繋げていきたい。

交通マナーについては、地域からも非常に懸念する声が多く寄せられており、自転車通学における交通ルールやマナーの徹底は、とりわけ大きな課題となっています。生徒会を中心に保護者や地域と連携した取組を推進していく必要があります。

SNSの普及が広がる中、新たな問題行動への対応も求められ、インターネット等の活用に関する規範意識や課題意識の向上に向けた取組を進めていく必要があります。

不登校や長期欠席生徒については、教育相談の充実や問題発覚時の迅速な対応を絶えず心がけ、教員が一人で抱え込まず、組織的な対応を徹底するなど、未然防止に力を入れるとともに、校内教育支援センター(ステップルーム白子)の活用やスクールカウンセラー、関係機関との連携を行い、きめ細かな家庭訪問などに努めたことで、その割合は減少傾向にあります。

今後も引き続き、全ての教職員が個々の欠席状況にきめ細かく目を向け早期対応を欠かすことなく、長期欠席や不登校の解消に取り組むことが重要課題であること認識し、適切な対応を推進していく必要があります。

特別支援教育については、年々一人ひとりの発達状況に応じた支援の必要性も求められてきており、教育的に課題のある生徒を適切に認識し、保護者や関係機関との連携を図りながら、個に応じたきめ細かな支援の工夫と教職員間での情報共有を大切にしていくなため、教職員の資質向上と学校が組織として取り組む体制づくりを進めていく必要があります。

4 人権教育

人権教育については、令和2年度まで取り組んできた三重県人権教育総合推進地域事業を機に、3小学校2幼稚園を含めた中学校区において「互いに認め合い、ともに学び、ともに生きる子どもの育成」を校区の研究テーマとして、幼小中の人権教育が系統的なものとなるよう人権教育カリキュラムの作成と見直しを行なってきました。

また令和3年度は、中学校学習指導要領の全面実施に伴い、新しい教科書に対応するカリキュラムの見直しに取り組みました。今後は、中学校区での保護者や地域と人権教育に係る取組の連携を深め、人権尊重の地域づくりに繋げていきたい。

5 地域とともにある学校づくり

協働型コミュニティ・スクールの運営が行われるよう、保護者や地域関係者の学校経営への参画協力を積極的に促し、有意義な対話（熟議）によって学校が抱える教育課題の改善に取り組んでいるところです。

また、保護者や地域への積極的な情報発信は、学校への理解を深めていただく上で重要となることから、通信、ホームページ、配信メールなどの充実を図っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う「新しい学校生活様式」について、保護者や地域住民とともに考え、授業や学校行事への参観の在り方や地域人材の協力を得た学習活動の工夫に取り組んできました。

今後は、保護者や地域の方々に教職員の総勤務時間縮減の取組について理解を深め、保護者や地域の協力を得た教職員の多忙感の解消や過重労働の縮減について検討を進め、職場の活性化を図っていきたい。

IV 中長期的重点目標

1 学校経営

学校経営の現状と課題を基に、めざす学校像の実現に向けて具体的な5つの項目を掲げ、それぞれに重点項目を位置づけ改善活動に取り組んでいきます。

その改善策や改善状況については、学校関係者評価や様々なアンケート調査等で検証し、子どもたちの成長が実感できる学校経営に取り組んでいきたい。

2 学習指導

鳴門教育大学との連携による組織的な学習指導に取り組んでいきます。そのため、学校間の連携による研究を連携校との間で積極的に進めるとともに、新しい学習指導要領に即した授業改善に取り組むなど、校内研修や教科部会を一層充実させ、教職員の授業力向上に取り組んでいきます。

また、家庭学習や補充学習などを工夫するとともに、生徒の主体的な学習を促進していきます。さらに、教育ICT機器を有効に活用し、視覚効果を生かしたわかりやすい授業づくりに取り組んでいきます。

3 生徒指導及び生徒支援

生徒指導については、生徒会を主体とした「あいさつの励行」、「時間の規律徹底」、「教室環境の美化整備」を要とした規範意識の醸成を図っていきます。

また、生徒一人ひとりの生育環境や背景に目を向け、心に寄り添った生徒指導を組織的に行う体制づくりを進めていきます。

生徒支援については、生徒一人ひとりに応じた必要な支援や長期欠席・不登校の改善に向けて、校区小学校と連携した不登校対策等を推進するとともに、関係機関や保護者等との緊密な連携を積極的に図る体制づくりを進めていきます。

4 人権教育

「互いに認め合い、ともに学び、ともに生きる子どもの育成」を校区の研究テーマをとし、仲間づくり・集団づくりの取組を系統的・計画的に実施するカリキュラムを見直し、自他を大切にす心情や命を大切にす姿を育てていきます。

また、身近な生活の中にある人権問題に気づき、主体的に差別をなくしていこうとする人権教育カリキュラムの作成を通して、校区小学校と連携した地域に根差した人権学習の取組を進め、生徒の人権感覚の育成を図るとともに、教職員への人権研修を計画的に実施し、教職員の資質向上を図っていきます。

5 地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの活性化を図り、協働型の学校運営協議会を構築していきます。また、保護者や地域住民との交流や学校教育活動への参加の機会を広げるとともに、積極的な情報発信や対話を促進し、保護者や地域との連携協力体制の充実強化を図っていきます。

さらに、学校教育活動の周知を通じ、教職員の総勤務時間の縮減への理解と協力が得られる保護者や地域との関係づくりに取り組むとともに、災害発生時等の地域との連携体制を構築し、保護者・地域と協力連携した教育環境づくりの進展を図っていきます。

V 本年度の行動計画

1 学力の向上と授業改善

【成果指標及び目標値】

(1) 「学校の授業が分かりやすいと感じている生徒の割合」

88%以上・・・R3:86.0%(+4.6%), R2:81.4%

(2) 「毎日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合」

50%以上・・・R3:47.7%(-9.5%), R2:57.2%

【重点とする取組】

(1) 子どもたちが主役となる授業に向けて「授業力UP5★」を意識した授業づくりが進められるよう、研修部会や教科部会の充実に努めていきます。

(2) 教育ICT機器の効果的な活用を一層進めていきます。

- (3) 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果を分析し、今後の授業改善の焦点化を図っていきます。
- (4) 教職員が積極的に参加できる校内研修体制の充実に取り組んでいきます。
- (5) ステップアップノート（本校オリジナル）を全学年で活用するとともに、クロームブックの持ち帰りを活用し、家庭学習の習慣化を進めていきます。
- (6) 学校図書館巡回指導員と連携し、図書室の利用促進を図っていきます。
- (7) 校区の小学校と連携して、マイノート（綴りかたノート）を活用した書く取組を定着させるとともに、「算数・数学」に重点を置いた学力向上に取り組んでいきます。

2 主体的に目的を持ち行動する生徒の育成

【成果指標及び目標値】

- (1) 「生徒会活動・委員会活動・係活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合」
87%以上・・・R3:85.3%(-0.3%), R2:85.6%
- (2) 「自分の進路について考えている生徒の割合」
74%以上・・・R3:72.4%(-3.3%), R2:75.7%

【重点とする取組】

- (1) 生徒会等を中心とした自治活動の充実や係り活動の活性化を図ります。
- (2) 地域人材の協力を得たキャリア教育を推進していきます。
- (3) 「キャリア・パスポート」を活用し系統的なキャリア教育を実施していきます。
- (4) 3年生での「進路だより」の発行をはじめ、全校生徒・保護者への進路に関する情報発信を積極的に実施していきます。

3 人権感覚あふれる生徒の育成

【成果指標及び目標値】

- (1) 「自分には、よいところがあると思っている生徒の割合」
71%以上・・・R3:68.9%(+4.6%), R2:64.3%
- (2) 「人権学習で学んだことが日常生活で行動できていると考えている生徒の割合」
82%以上・・・R3:79.9%(-0.2%), R2:80.1%

【重点とする取組】

- (1) 中学校区人権教育カリキュラムの見直しや、いじめ及び差別の問題についての学習、命の大切さを学ぶ学習、仲間づくり・集団づくりの学習を実施します。
- (2) 生徒指導・生徒支援・研修の各部会が緊密に連携し、一体となった組織的な生徒育成体制を進めていきます。
- (3) 長期欠席・不登校の改善に向け、欠席状況のきめ細かな把握や早期の家庭訪問の実施など、教職員による初期支援体制の充実強化を図っていきます。
- (4) 特別支援教育に関する研修会を開催し、教職員の資質向上と学校が組織として対応できる体制を図っていきます。
- (5) 特別支援学級、校内教育支援センター(ステップルーム白子)、国際教室での学習に体験的な学習を取り入れるなどの充実を図っていきます。

4 地域とともにある学校づくりの推進

【成果指標及び目標値】

(1) 「学校が教育課題の改善に取り組んでいると捉えている保護者の割合」

74%以上・・・R3:72.4%(+2.0%), R2:70.4%

(2) 「学校が身近に感じられている保護者の割合」

68%以上・・・R3:65.8%(-0.8%), R2:66.6%

【重点とする取組】

(1) 学校教育活動の様子や改善状況について、積極的に情報発信していきます。

(2) P T Aや地域関係者との積極的な対話を促進していきます。

(3) 白子中校区の幼小中が連携した教育活動を進めていきます。

5 学校教育環境の改善

【成果指標及び目標値】

(1) 「時間外労働時間の対前年度縮減率」

2%減・・・R3:2.4%減, R2:17.0%増

(2) 「学校は施設・設備の充実に努めていると考えている保護者の割合」

73%・・・R3:71.4%(+2.9%), R2:68.5%

【重点とする取組】

(1) 教職員の総勤務時間の縮減と労働安全衛生の確保に向けて取り組んでいきます。

(2) 教職員と市教育委員会、地域関係者とともに、校舎の大規模改修工事を円滑に進めていきます。